

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200302		
法人名	NPO法人 ソーシャル・ネットワーク		
事業所名	グループホームぬくもりの里かも		
所在地	岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣2239番地		
自己評価作成日	令和3年8月13日	評価結果市町村受理日	令和3年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

廻りが田んぼに囲まれているため、田植えから稲刈りまで見ることが出来、その風景を見ながら会話のきっかけにしたりしている。又、車通りが多くない為施設周辺の散歩は安全に行うことが出来る。年1度1泊又は日帰り旅行へ行くと、普段とは違う景色や食事を楽しんで頂き気分転換になっていると思う。月ごとの季節にあった作品を入所の方と共同で作る事で季節を感じて頂いている。又、会話のきっかけにもなり、関わりを持って頂いていると思う。医療面では月2回の往診を受け、健康管理、口腔衛生、服薬管理を行っており、又、各棟に看護師を配置し、急病などの場合も迅速に対応しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2171200302-00&SerViceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和3年9月24日		

「穏やかにゆっくり」とをモットーに利用者の意向を尊重し、できることが継続できるように支援している。随時の外出、地域との交流、年1回の1泊又は日帰り旅行や家族との共同作品作りは、コロナ禍で中止となり、軽体操の活用、本の貸し出し利用やレクリエーションを工夫し筋力低下防止や認知症予防への努力をしている。10年以上入居し101歳の人もおられ、その人のペースや希望に合わせた支援をしている。平屋建ての事業所で大雨時等の緊急時に備え、事前対策や避難誘導にも前向きに取り組んでいる。職員の希望や家庭事情に合わせたシフトで、長期休暇には子連れ出勤も可とし、働きやすい職場にしている。月2回のミーティングは、ほぼ全職員が参加し、事業所負担で資格取得や研修参加への制度があり、質の向上に務めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のカンファレンスにおいて法人理念・介護理念を唱和し、理念の共有をしています。又、「穏やかにゆっくり」と言うモットーを掲げ、常に意識し声を掛け合い介護を行っている。	法人の理念を基に定めた介護の理念と「穏やかにゆっくり」のモットーを掲げ、日々のケアで実践している。職員が目にして意識化して実践できるよう事務所に掲示し、ミーティングで唱和し話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への積極的な参加と、園児・地域ボランティアの積極的な受け入れをしている。	好天時は事業所周辺を散歩し住民と出会えば、挨拶や会話をしている。以前は、保育園児やボランティアとの交流、キャンドルナイト・獅子舞奉納・高齢者行方不明探索訓練等の地域行事に参加していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資格取得時の実習、市内の中学生の職業体験などの受け入れを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夜間に運営推進会議を開催し大半の方の参加を頂いております。参加者の方や知人の経験談などを話していただき、当施設の取り組みに活かしております。	メンバーが参加しやすい夜間帯に開催している。コロナ禍で外出や交流の機会が少なく「みのかもながら体操」の活用、「あまの森文庫」の貸し出し、感染症対策への助言等ももらい取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加しており、情報交換を密に取り連携を心掛けています。	書類提出等はホーム長が市に出向き、事業所の実情を伝えている。市主催の会議や研修は中止の為、電話やメールで情報を得て連携に努めている。市からマスク、消毒薬、フェースガードや地域専用商品券の寄付をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行った。常に話し合い実践するよう心がけています。	身体拘束に関するマニュアルを定め、利用者の行動を制止する等の言葉遣いにも注意し拘束しないケアに努めている。年2回は研修を実施し、委員会を開催しているが記録がなく、身体拘束廃止に向けての指針がない。	身体拘束等の適正化の為の指針を整備し、委員会で話し合った内容を記録に残し、身体拘束について情報を共有する努力が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行った。相談し合える環境作りに努め、共通の認識を持つようにしている。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての外部研修に参加できる機会があれば活用し支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者家族の方が不明な点・疑問点があれば十分時間を取り、説明をし理解して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には時間を頂き、ご意見・ご要望をお聞きしている。出た意見については、迅速に検討し対応している。	コロナ禍の状況でオンライン面会時や必要時の電話にて、意見や要望を聞いている。毎月、日常生活の様子の写真と近況を記した手紙を郵送し意見が言いやすくしている。家族会で利用者と共に共同作品作りをしていた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員代表を選出し、意見や提案を聞く機会を作り会議で話あっている。	月2回のミーティング以外でも業務中に意見を言える関係や雰囲気がある。勤務時間や勤務形態は、職員の希望に応じ子連れ出勤も認めている。日勤と夜勤帯の業務分担や書式の簡略化の提案があり変更した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職や職員の個々の実績や努力、勤務状況などを把握しそれを基に考課表により、問題点を挙げ、各自が向上が持てるように職場環境や条件の整備に努め、楽しくやりがいを持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職や職員に対して外部研修、施設内研修を行っている。又、職員の資格取得については積極的にスキルアップが図れるようにバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の訪問を通じ情報交換を図っている。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し寄り添うケアに努め、職員間で情報共有し、利用者が安心して生活できるような関係作りを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困り事や要望などを時間をかけてじっくり聞き取れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話し合いその時に必要な支援を見極め適切なサービス利用につなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	配膳や洗い物、洗濯干しや洗濯たたむ等以前やられていたことを通じてレクや物作りなどを一緒に行う時間を作り関わりを持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見を聞きながら共に支え合う気持ちを持って利用者を支援していく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て墓参りに外出。外出時に外食をしている。	家族に電話の取り次ぎをしたり、暑中見舞い・年賀葉書・手紙等の住所や宛名の確認をしたり、出来ない部分の支援をして関係が途切れないようにしている。体操ボランティアからビデオ録画したDVDを頂き使っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の合う利用者同士の関係を見極め良好な関係が保てるように支援している。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた後でも面会などさせて頂いています。施設側とも連携をより良いケアが行えるよう支援させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話から趣味や特技を把握しそこを充実できるように取り組んでいます。	本人から希望があれば、その場で直ぐ話を聞くように努めている。ソワソワしたり、落ち着かない行動、表情や仕草等からも把握している。首を振ったり指をさしたりして、自己決定しやすくしている。家族に確認する場合もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には利用しているサービス提供の場に向き、サービス利用の経過把握や生活歴等の把握に努めています。入所後はカンファレンスにて情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の過ごし方を介護記録に記載し現状の把握に努めている。変化があれば申し送りを行い、特に注意するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限りご家族同席の担当者会議の開催を心掛けているが、なかなか難しく電話で確認させていただいている。それを基にサービス計画を作成している。	家族には電話や手紙で希望を聞き、医師の意見も参考に介護計画を作成している。3ヶ月毎に担当者がモニタリングし、6ヶ月毎に更新している。ユニット毎の会議で全利用者の意向と状況確認をし、サービス内容に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録に記入し職員間で情報を共有しより良いケアにつなげられるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の要望について柔軟な支援をするように努めています。変化があれば変更し報告するように努めている。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設避難訓練の際に地域の方にも参加して頂けるように案内を出させて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医協力医は本人家族の意向に合わせている。他科受診は家族に依頼しており本人の状態などは常にご家族と共有し連携に努めています。	入居時に家族の希望で協力医に変更する人が多い。かかりつけ医を家族が同行し受診時は、日頃の状況を口頭説明し受診後に報告を受けている。職員がかかりつけ医に直接状況説明する場合もある。歯科の訪問診療を利用する人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いたことなど看護師に伝え相談し医療的な事への対応が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療が受けられるようにご家族病院と良好な関係が保てるように努めています。病院の相談員との連携を密に取って情報収集に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化に伴いその都度、医師、家族、看護師などと話し合いながら対応しています。救急対応は消防署や看護師による指導にて職員全員研修を受けています。	入居時に急変時対応についての同意書をもらい、状態に応じて医師及び職員が家族に説明している。希望に合わせて看取りに対応し、家族が居室に泊まり看取った例がある。終末期に近づく看護士から指導、助言があり、連携を図りながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や初期対応の講習を行い実践力を身に付けるように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定した避難訓練を定期的に行っています。近隣の方の連絡網を作り地域との協力体制が図られており、災害時の避難場所としての受け入れを受託している。水害に対する準備訓練を行った。	今年の夏に事業所前の用水路から大雨による越水の恐れがあり、系列事業所に避難した経緯がある。職員の連絡網、利用者の避難誘導や車両操作等についてアンケートを実施し課題を明確にしている。地域の連絡網があり協力体制はできているが訓練時の協力が無い。	災害時は住民の協力が不可欠であり、様々な機会に避難訓練への協力依頼の努力が望まれる。

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、トイレ前や居室入口にカーテンを設置し外から見えないようにしています。人生の先輩として尊重し言葉かけに対応をしています。	利用者のプライドを傷つけないように言葉遣いに注意している。トイレ誘導時に大声を出さず、その人に合わせた声かけをしている。利用者の呼称は〇〇さんで呼んでいる。居室入室時はノックし、扉を閉めて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の色々な場面で自己決定が出来るよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、できる限り希望に沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えなどご自分で選んで頂けるように支援し、隔月の出張床屋にて散髪をしてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年間の献立表を立てていますが、誕生日や行事に合わせてその都度メニューの変更をしています。配膳を一緒に行ったり行事食を一緒に作っています。	希望の献立、行事食、食器の工夫、敬老会に寿司や土用丑の日に鰻の出前を取り楽しみな食事に行っている。配膳、洗い物や食器拭き等の出来ることをしてもらっている。おだまき、お好み焼きやカステラ焼き等を一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分補給、毎食後に摂取量を記入し、個人個人の栄養補給の支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをおこなっています。ケア困難な方には、職員が歯磨きティッシュやスポンジを使用し口腔衛生に努めています。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄表から利用者の排泄パターンを把握しています。なるべくトイレで排泄出来るよう支援しています。	オムツを使用していた人がリハビリパンツに変わり、トイレ排泄になった人がいる。夜間もトイレ誘導やトイレでの排泄介助をしている。トイレに行く姿を見かけたら、さりげなく誘導や介助し、パッドの検討をして自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、十分な水分補給、看護師による排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	重度の方でも2人介助で可能な限り浴槽に入ってもらえるよう支援しています。入浴順を決めず、その日の体調や気分に応じて入浴して頂いています。	シャンプーやボディソープは希望に合わせ、入浴順は固定せず同性介助にも配慮している。状態に合わせて、シャワー浴、足浴、手浴や清拭をしている。嫌がる人には声かけの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を考え、午前や午後に休息の時間を設けています。足背や下肢に浮腫がある方には、足拳上にて改善に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に薬の説明書が綴っており、薬の事が一目でわかるようになっています。服薬時には名前、日付などを利用者と一緒に声に出して確認し誤薬のないように細心の注意を払っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人それぞれに合った役割を見つけ支援を行っています。外出などで気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に出かけるなど、戸外に出かける機会を作っています。中庭でおやつを食べたり、写真撮影を行っています。	事業所周辺の散歩をする、中庭でお茶を飲む、洗濯物を干す、ユニット間を歩き来する等で外気に触れ、季節を感じてもらおう工夫をしている。以前は、桜見、紅葉狩り、足湯や喫茶店等に出掛けていた。1泊又は日帰り旅行は毎年の恒例行事だった。	

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在入所の方でお金を持っている方はいない為支援はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	四季の手紙は定期的を書いて頂けるように支援しています。コロナ感染防止の為面会制限をさせて頂いていたので、オンライン面会の支援をしました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には利用者との共同作業で作成した作品が飾られており季節感を表現しています。写真も多く掲示し会話のきっかけになるようにしています。	オゾン発生機や空気清浄機を設置し、随時手すりやドアノブ等を拭き、感染症予防に心掛けている。毎月の壁面飾りや行事写真を掲示し、季節が感じ取れるようにしている。中庭の木を折り紙で飾り、花見気分や鳥居を作り初詣気分になってもらっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには二人掛けや三人掛けのソファが置かれ寛ぎの空間となっています。又、廊下のベンチは憩いの場となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望で畳を部分敷きにしたりテレビやタンスなどの調度品を置いています。居室にはご家族との写真を貼ったりしています。	希望で床に畳を敷き、使い慣れた家具等を持ち込んでいる。長寿の祝い状、家族写真、誕生カードや自分の作品を飾っている。遺影にお茶を供える、アルバムを見る、新聞や本を読む、編み物や縫い物をして居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっており、トイレ、廊下には手すりが設置されていて安全安心して自由に自立した生活が送れるようになっています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200302		
法人名	NPO法人 ソーシャル・ネットワーク		
事業所名	グループホームぬくもりの里かもの		
所在地	岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣2239番地		
自己評価作成日	令和3年8月13日	評価結果市町村受理日	令和3年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2171200302-00&SerVi.ceOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橘町1丁目3番地		
訪問調査日	令和3年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のカンファレンスにおいて、法人理念・介護理念を唱和し、理念の共有をしています。また、「穏やかにゆっくり」というモットーを掲げ、常に意識し、介護を行っています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への積極的な参加と、園児・地域ボランティアの積極的な受け入れをしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資格習得時の実習・市内の中学生の職業体験などの受け入れを行っています。又、市が実施した、認知症高齢者の探索訓練において、職員が高齢者のモデルとして参加しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夜間に運営推進会議を開催し、大半の方の参加を頂いています。参加者の方や、知人の経験談等を、活かして頂いており、当施設への取り組みに活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いており、情報交換を密に取り、連携を心掛けております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する外部研修に参加し、内部の会議などで話し合っている。内部研修も実施し、身体拘束をしないケアを常に確認し合い、実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、外部研修を受講し、内部研修も実施、虐待についての共通の認識を持っている。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての外部研修に参加できる機会があれば活用して支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に利用者・家族の方が不明な点、疑問点があれば十分時間を取り説明をし理解して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には時間を頂き、ご意見ご要望をお聞きしている。出た意見についてはすぐに検討し対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く機会を作り、その都度話をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職や職員の個々の実績や努力、勤務状況を把握しそれを基に考課表により問題点をあげ各自が向上心が持てるように職場環境や条件の整備に努め楽しく働けるようにしている。子育て支援制度を新しく設けた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職や職員に対して外部研修・社内研修を行っている。又職員の資格取得については積極的にスキルアップを図れるようにバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設の訪問を通じ情報収集を図っている。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し寄り添うケアに努め、職員間で情報共有し利用者が安心して生活出来るような関係作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや要望などを時間をかけてじっくりと聞き取れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合い、その時に必要な支援を見極め適切なサービス利用に繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の中でレクや物作りの時間を作り共に話し合い関わりを持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見を聞きながら、共に支え合う気持ちを持って利用者を支援していく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て馴染みの美容院に行ったり墓参りなどに外出。外出時に家族や友人と外食したりしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の合う利用者同士の関係を見極め良好な関係が保てるように支援している。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた後でも面会などをさせて頂いています。又、施設側とも連携し、より良いケアが行えるように支援させて頂いています。看取りをさせて頂いたご家族には、お見送り、七七日には、献花させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんとの会話との趣味や特技を把握し、そこを充実できるように取り組みをしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には利用しているサービス提供の場に出向き、サービス利用の経過把握や生活歴などの把握に努めています。入所後はカンファレンスにて情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の過ごし方を介護記録に記載し、現状の把握に努めている。変化があれば申し送りし、特に注意するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限りご家族の同席の担当者会議の開催を心掛けている。それを基に、サービス計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録に記入し、職員間で情報を共有し、より良いケアにつなげられるようにつとめている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の要望について柔軟な支援をするように努めている。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設避難訓練の際に、地域の方にも参加して頂けるように、案内を出させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医・協力医は本人の意向に合わせている。他科受診は家族に依頼しており、本人の状態などは、常にご家族と共有し連携に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニット毎に、看護師を配置し、医療的な事への対応を全面的にバックアップする体制にあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療が受け入れられるように、ご家族・病院と友好的な関係が保てるように、つとめています。又、病院の、相談員との連携を密に取って、情報収集に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化に伴い、その都度、医師、家族、看護師などと話し合いながら、対応している。看取りも行っている。緊急対応は、消防署や看護師による指導にて職員が全員研修を受けています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や、初期対応の講習を行い、実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定した避難訓練を定期的に行っています。水害を想定した避難訓練も行っています。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、トイレ前や居室入口にカーテンを設置し、外から見えにくいようにしている。人生の先輩として尊重し、言葉かけや、対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の色々な場面で自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、出来る限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えなど、ご自分で選んで頂けるように支援し、隔月の出張や床屋にて散髪をしてもらっています。又、家族の協力により、馴染みの美容院に行かれる方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年間の献立表を立ててはいますが、誕生日や行事に合わせて、その都度メニューを変更したり外出時に外食したりすることがあります。片付けなど、一緒にして頂く事があります。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや、水分補給、毎食後に、摂取量を記入し、個人個人の栄養補給の支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、口腔ケアを行っております。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表から利用者の排泄パターンを把握している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、十分な水分補給、看護師による排便コントロールを行っています。又、排泄チェック表からその人それぞれの排泄パターンに応じた対応を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	重度者の方も二人介助で可能な限り浴槽に入ってもらえるように支援しています。男性女性と偏らないように工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を考慮し、午前や午後に休息の時間を設けています。足背や下肢に浮腫がある方には足拳上にて改善に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の介護記録に薬の説明書が綴っており、薬の事が一目でわかるようになっています。服薬時には名前日付などを利用者と一緒に声を出して確認し誤薬のないように細心の注意を払っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人それぞれに合った役割を見つけ支援を行っています。又、外出等で気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩に出掛けたり、戸外に出る機会を作っている。喫茶店外出にも出掛けます。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在入所の方で、お金を持っている方が、おられない為、支援はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	四季の手紙は定期的に、書いて頂けるように支援しています。又、電話を希望される方には取次などの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には利用者との共同作業で作成した作品が飾られており、季節感を表現している。廊下には、ベンチ、リビングにはソファを配置し、くつろげるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファが置かれ、くつろぎの空間となっている。又、廊下のベンチは憩いの場となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望でテレビやタンスなどの調度品を置いています。居室で、新聞を読む方もおられ、自分の居室も寛ぎの空間になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっており、トイレ廊下には手すりが設置されていて、安全・安心で自由に自立した生活が送れるようになっています。		